



令和8年 3月 31日

岩倉市議会議長

須藤智子様

日比野 走

### 研修受講報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

#### 記

- 1 実施日 令和8年1月23日(金)
- 2 研修先 全国町村会館 人口減少フォーラム
- 3 復命事項  
別紙のとおり

## 人口減少フォーラム

廿日市市:川本元副市長

根屋川市:市川副市長

和泉市:吉田元副市長

自分の市でやってきたこと、課題

吉田「仕組みの整理など、人事給与改革。

ロジカルに物事の進め方、pdcaを意識付け」

市川「広瀬市長のトップダウン。事務瑕疵のフォロー。職員規律の徹底。職員の勤務外での過失の一報は警察から人事部に。その時は自損事故によるものだったが、その運転手に10年免許証が無いことに気づかず。部署への懲戒、嚴重注意も担当した。」

川本「予算査定はブラックボックスだが、現状認識をしっかりと捉え、ギャップを埋めるための意識を。係長との対話は学習のみ。課長との対話が予算査定に関わるようになる。」

吉田「対話の仕組み作りをした方が？市長の予算編成に入っていない場合もある。オフィシャルに市長がやりたいものを入れられる仕組み作りを求める。(小玉が先に決まってくるが、大玉なものを後からでも、小玉のものを後からでも切れる仕組み)」

サマーレビュー…8月頃に前段階の予算審議や検証。これらの内容を頭に入れておくと政策形成プロセスが見えてくるように。

## ヒントのを見つけ方

川本「内実の話は基本しない。職場に来て話す人には仲良くなるかも。」

市川「ウチは来てほしく無い。必ず呼ばれたらいく。」会派要望「寝屋川市に2月頃」

吉田「市長の指示、議会の要望を的確に入れられるタイミングをシステムとしてつくろう」

## 統廃合について

市川「感情で拒絶されるが、それに対して市長はデータで示している。」

## 人事部

川本「人事は副市長が手を出す事は出来ない」

吉田「人事は現場方針。暴君を生み出さない為。時には副市長として人事を取っていた。結果現場からは喜ばれたと考える。」

## 副市長の議会に対する関わり

市川「主に決裁(1日70件くらい)朝早くくらいに処理して終わらせる。職員が市長に事業内容を持っていく際のノウハウなどの説明もする。」

吉田「特別職ミーティング等、市長職員共にスクラップアンドビルドな企画整理に努める。」

#### 財政しくみに係る市長との関わり方

市川「累積黒字が重なるなら、赤字も少し入れる地方交付金の流れがわかると、質問のクオリティがあがるかも。」

#### 人材流動化

市川「辞める人が少ない筈だったのに、早期新卒、管理職もザラに辞めていく。人事評価制度に切り込んでいくのも議員の仕事。ダメなレッテルはなんとかしないと。という意思。ことなかれ主義な意思も一目で見えるもの。」

#### 公共施設

吉田「床面積 30%は方法論である。」

川本「自分がやめてから廿日市市は動いた。何を止めるかの選択肢を探る時代に」

吉田「橋下徹氏の元、誰が誰の権限があるのかを明確化していく事に注力した。その権限について理解の浅い職員との関わりは控えよう。」

#### 市長と議会の間立つ副市長

吉田「全事業を副市長らが持ち込んで行うため、当局間での軋轢はない。議会との軋轢は現実的に避けられないものだったので自分が泥被ることも。」

市川「無い答弁を捏造された時、矢面に立つこともあった。」

#### NG 行動

吉田「決定権を無視したり、ガバナンスを曲げるような立ち回りには違和感を覚える。」

市川「寝屋川市では、パフォーマンスや人格を貶める様な質問が出たりするが、そういったのは止めてもらいたい。本質的な質問をして欲しい。(都市公園の何を訊きたい?)」

川本「自分のテーマで学習。生活課題の解決をメインで話をしてほしい。」

#### 副市長から見た議会とは？

吉田「スキルアップを図れ。」

市川「若い人が増えた。質問のクオリティ向上が当局、議会の緊張感を高める。」

川本「大阪では予算形成過程に議会が関わる。査定も学習が浅く、鵜呑みのような状態。行政が分からないのだろうか。理解しようと思って行政と対話していければよい。」

## 二日目

### 一般質問について

吉田「最初の役人のヒアリングではあまり質問者の意図は反映されない。

答弁調整会議で特別職の意図が入ると見るべき。唸る質問の要素として、動機が感動的であること。ロジックを整理した上で論を展開すること。周りの議員を納得させて議会としての方向性指針を自分にあわせることの3つが大切だと考える。」

### 唸った具体案

「女性の健康 総務省で損失 3.4 兆円」

「全国テスト点数あげるのが教育テストの目的か？」

「不適切事務 信頼性の喪失 全体統括の副市長の責任では？」

川本「市民サービスの向上を目的とすべきである。一般質問の成果として、市民に対する情報提供されたものから隠れた課題の明確化、不作為などを当局や他の議員たちに共有し、課題解決のための政策提案を図っていくために行う。」

### 市川

- ・ 内容が曖昧・目的不明確 → 答弁が「取組事例を調査研究します。」で終わる。
- ・ 予算規模・実現性を無視した提案→行政運営の現実と乖離し、説得力が弱まる。
- ・ 思い込みに基づく主張 → 割れ窓理論など曖昧な概念を持ち込むと焦点がぼける
- ・ 伝聞形式の質問（～を聞いた）→ 事実確認が不十分な印象となり、リアリティを欠く。
- ・ エピソードの使い方が不適切→ 個人的体験に寄りすぎると一般性が失われ、政策論として弱くなる。

### 自分が議員の立場で質疑するなら

吉田「予算主義、計画主義を無くすべき。何をしたかったのか、それを計画に盛り込めたのか、その上で実現できたのかの進捗を聞く。」

川本「東広島市の保育園。待機児童0ではあるが、望んだ保育園に入れず別の保育園に入った人も、育休休業延長も待機児童に入らない。100人保留がいる。床面積が満たしても保育士がいないと断る実例。年度途中の入園では子どもか来るかどうか分からないから市単独で、国の補助来るまで負担しては？（個別調査もしてみれば）」

市川「公務員の流動化、倍率下がる分析は？待遇面は悪く無いが、ドラフト制にするように、採る新卒（瞬発力の高い）の欲しい明確化した基準があるのか。」

被面接者の正確や能力の精査を代行する行動観察研究所でプロフィール（大阪ガスで実施）での1,000万円の費用を渡すか、生涯従業員に支払っていく予定だった約3億円の働きを捨てるか。その2択に悩むことも。」

#### 所感

人口減少フォーラムでは、副市長経験者の皆様から行政運営の実態と議会の役割について多くの学びを得た。特に「動機・ロジック・議会としての方向性」という“唸る質問”の基準は、人事評価や公務員の流動化、職員規律の課題など、自治体の根幹に関わるテーマについて議会が制度面から関与すべき必要性も強く意識した。さらに、質問は当局だけでなく議会全体に向けたメッセージでもあるという指摘は、議会内の学習と緊張感を高める意味で印象深かった。今回得た視点を、岩倉市の課題解決と市民サービス向上につながる実践へとつなげていく他、川本元副市長の携わる保育園のお話から岩倉市の保育制度がどのような体制になっているのかを行政に投げかけてみたいと考える。